

第3回 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

日時：令和7年11月7日(水)午後13時～午後14時30分

会場：市役所西庁舎12階 西12D会議室

1 出席者

【委員】(五十音順・敬称略)

所属・役職等	氏名
中京大学スポーツ科学部 准教授	倉持 梨恵子
日本福祉大学 大学院スポーツ科学研究科 健康科学部リハビリテーション学科 教授	小林 寛和
中部大学生命健康科学研究科 保健医療学専攻 准教授	松村 亜矢子
名古屋市立大学整形外科 主任教授	村上 英樹
名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学寄附講座 准教授	吉田 雅人

【行政関係者】

所属・役職等	氏名	
スポーツ市民局	スポーツ推進部 部長	石原 治
	スポーツ推進部 担当課長	沓名 大介
	スポーツ推進部スポーツ振興課 課長補佐	増田 大樹

2 会議次第

- 1 開会
- 2 参考資料
 - (1) 第2回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要
 - (2) 市のスポーツ施設配置状況等について
 - (3) 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み
- 3 議題
 - (1) スポーツ医・科学施設の主な機能について
 - (2) メディカル機能の望ましいあり方について
 - (3) スポーツ医科学施設の整備候補地について
 - (4) 持続可能な運営等について
- 4 閉会

3 議事概要

参考資料

参考 1 第3回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

○特になし

参考 2 市のスポーツ施設配置状況等について

○各施設に配置されているスタッフ数・有資格者数がわかるとよい。

参考 3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

○他の都道府県等におけるスポーツ科学センターの活動についても調査すると参考になるのではないか。

議題

(1) スポーツ医・科学施設の主な機能について

- 取り組みの柱の3の、人材確保の表現は、利用者や市民向けというよりも、施設運営の観点のように見える。他の柱は、利用者や市民に向けた表現になっているので、対象者の表現はそろえたほうが、取り組みの方向性が整理されると思う。
- スポーツ庁が発信している「ライフパフォーマンス」という考え方が検討している施設機能と一致するため、このような時代に即したワードを取り入れるかどうか検討の余地がある。
- 「スポーツ傷害」という言葉については、表現の変遷等も踏まえて、「スポーツ外傷・障害」の表現を検討していただきたい。
- 資料1-2の市民向けの取り組みにおいては、「スポーツ」という表現だと対象が狭まる印象があるので、一般の方に馴染みやすいよう「運動」という言葉を入れるとよいのではないか。
- 資料1-2、資料1-3では怪我や不調で困っている個人が相談できる機能が反映されていないと感じた。

(2) メディカル機能の望ましいあり方について

- 資料2-1、2-2において、メディカルチェック、フィジカルチェック・フィットネスチェックの表現の整合性をとったほうがよい。また、フィジカルトレーニングサポートについても、コンディショニング・リコンディショニングという表現にした方が統一感がある。スポーツ版人間ドックから、医療に移る場合と、コンディショニングサポートに移る場合の分岐がわかるようなフロー図にできるとよい。
- 本施設の取り組みは、有疾患者以外も対象なので、医療行為で線引きするよりも、メディカルとコンディショニングで区分したほうがよいのではないか。トータルコンディショニングという考え方もある。

(3) スポーツ医科学施設の候補地について

- 本施設にはパロマ瑞穂スポーツパークにある既存機能は作る必要がないと考え、本候補地は十分なスペースがある。
- 素晴らしい場所で、公共交通機関からも徒歩圏内である。一方、不調のある方やレベルの高い社会人選手は自動車を使用する方が多いため、駐車場の確保も重要。

(4) 持続可能な運営等について

- 部活動の地域移行を踏まえた部活動への支援や、専門職を目指す大学生の育成の観点など、どこまで外部と連携していくのかの考えも記載できるとよい。
- 資金面や人材交流といった面においても、企業と連携できるとよい。
- 医療業界においても赤字の医療機関が増えているので、料金設定や運営体制は早めに考えておく必要がある。
- 企業に対してスポーツを通じた健康経営をサポートするコンサルティングをすれば、働き世代の方にもアプローチができ、スポーツ実施率向上につながるのではないかと。

その他

- 専門人材の確保については、施設のコンセプトに適した人でないといけないため、施設機能やコンセプトの企画段階から考える必要がある。
- 先日、梅村学園の出身者で構成されるオリンピック・パラリンピアンのがが発足し、地域貢献や社会活動を行っていくこととなった。様々な世代に対応ができるため、連携できるとよい。

以上